

天然記念物 植物③

～洞泉寺樹齢300年のイチヨウ・神集島のハマユウ群生地～

■洞泉寺（とうせんじ）のイチヨウ

洞泉寺のイチヨウは雌株で、標高30m、根回り5.75m、枝張り東西21.8m南北23.1mあり、唐津地方では有名な巨木の一つである。

市内東宇木の大谷山洞泉寺の本尊は、篠栗地蔵菩薩で眼病と安産に霊験があると信仰されており、その昔、この地蔵菩薩にちなんでこの寺に植樹されたと伝えられ、樹齢300年と推定されている。

裸子植物中のイチヨウは、化石では17属と多くの種類がありますが、現生するものは、イチヨウただ一種である。

イチヨウの出現は、古時代のデボン紀で、約1億5,000万年前の中世代ジュラ紀から新世代第3紀まで地球上各地で繁殖した。その後氷河期の到来とともに絶滅していき、イチヨウただ一種が中国の一部に残った。現在、自生のイチヨウは中国安徽省南部と浙江省北部にわずかに残るのみといわれている。日本でも古く室町時代に植樹された記録がある。

洞泉寺のイチヨウは雌株で、俗に“チチ”と呼ばれる気根が多数たれ下がり、「これに願いをかければ乳が出る」といわれている。樹幹を真直ぐに出し、多数の太い枝をホウキ状に出す特異な樹冠をつくるこのイチヨウは、春になると幹からよくひこばえを出す。4月に花をつけ、9～10月に多数の種子をつける。

指定：昭和47年9月1日

所在：唐津市東宇木（洞泉寺）（唐津駅より車で30分）

■神集島（かしわじま）のハマユウ群生地

神集島は、唐津市西部の湊地区から約1kmの沖合いにある島で、島の東北、宮崎の砂洲に神功皇后が諸神を祀って戦勝を祈願したと伝えられる住吉神社がある。この神社付近の海岸にハマユウの群生地がある。

ハマユウは和名をハマオモトといい、ヒガンバナ科の常緑多年草で、神集島の人々はハマユウとして親しんでいる。ハマオモトは海岸や砂地や砂礫地に生え、ここ他、高島、小川島、唐津の海岸にわずかに自生している。

ハマオモトの茎部は白色の長い葉鞘があつく、お互いに抱きあい、りん茎をつくったもので、葉は70cm、幅8cmに達し光沢がある。夏に葉の間から花茎をだし、高さ70cmぐらいに伸び、その先に10数個の白色の花が傘状に咲き、より香りをただよわせる。

ハマオモトが海岸や離島に多いのは、その球状をした大きな種子のためで、この種子は水分を多く含み、海流によって遠くへ流され海岸に打ち上げられても乾燥に強く、容易に発芽することができるためで、現在、海岸線一帯に約240mにわたって群生している。

海岸に生え、形がおもとに似ているのでハマオモトと呼び、巻き重なったりん茎の白色の葉鞘が幣をかけたようなので浜木綿の名がある。県内で数少ない群生地として植物の生態学、分布学上貴重な資料とされている。

指定：昭和47年9月1日

所在：唐津市神集島（西唐津駅より車で30分、湊港より船で10分、湊港より徒歩5分）

分野 自然

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



洞泉寺のイチヨウ
（『唐津市の文化財』より）



神集島のハマユウ群生地
（『唐津市の文化財』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『唐津市の文化財』
唐津市教育委員会

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html